

園内展示（看板：鳥の渡り）

春と秋には、四国と淡路島の間を渡り鳥の猛禽類が多数渡ります。多い日には、1,000 羽の鳥が空を舞います。鳴門海峡を渡る渡り鳥は、主に次の 4 種です。

サシバ

体長 47 から 51cm になるサシバは、赤茶色の胸に白い模様があるのが特徴です。

ノスリ

羽が幅広く尾が短いこの猛禽類は体長 50 から 60cm で、薄い灰褐色です。空高くで舞い上がり、遥か下の地面の獲物を探す際には空中に静止しているように見えることもあります。

ハイタカ

ハイタカは成鳥になると体長 30 から 40cm になります。羽は短く、獲物を捕まえる際に小回りのきいた飛び方ができます。

ハチクマ

この鳥は、鳩のような小さな頭部、長く丸みを帯びた尾、および大きな翼幅が特徴です。翼幅は最大 155cm にもなります。

渡りのルートと季節

サシバとハチクマは、秋に日本からインドネシアやフィリピンの南部に移動します。その際、東から西に鳴門海峡を渡ります。春に戻って来る際には、鳴門海峡を逆の方向に渡ります。秋になると、ハイタカが中国から日本に飛来する際に鳴門海峡を西から東に渡ります。秋の渡りは 9 月から 11 月で、春の渡りは 3 月中旬から 6 月上旬となります。ノスリは日本の北部と南西部の間を移動します。